



第200回例会

日 時：平成 24 年 6 月 14 日(木) 16:00～17:30

場 所：八王子エルシー

出席者：66 名 欠席者 5 名 出席率 93.0%

(会員総数 71 名休会 0 名)

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会



本日の資料の確認と出席状況報告があった。

2. 挨拶 佐々木会長



本日は、例会、総会に続き懇親会を予定しており、長時間の会合となりますが、よろしく願いいたします。

本日の例会は、本年度最後の例会であります。昨年7月の会長就任以来、役員諸兄姉ともども、クラブの円滑な運営、さらなる発展に微力を尽くして参りました。この間、会員の皆様には、終始暖かいご支援、ご協力を頂き、まことに有難うございました。

この一年を振り返ってみますと、詳細は、後ほど担当の各役員から報告いたしますが、「八王子宇宙の学校」の順調なスタート、「講演会等の講師派遣案内」の完成をはじめ、当初掲げた目標は、おおむね達成できたと考えております。これらのほか、いくつかの例を挙げますと、「生涯学習サロン」の開講式、閉講式における特別講話や新春特別講話はそれぞれ時宜にかなった感銘深いものであり、“水”をテーマとする野外研修でも大

きな収穫がありました。また毎月の例会では、配席を工夫するなど楽しい雰囲気作りに努めましたが、オリジナリティ豊かな楽しい卓話も多く、高い出席率を記録しました。「プロバスだより」も、バリエエティに富む投稿を頂き、一段と充実しました。

何よりも、会員数が70名を超え、一人の休会者もない状態が続いていることは喜ばしいことです。

さて、本日の例会は、第200回目に当たります。1995年(平成7年)10月18日のクラブ創立以来、営々と続けてきた例会が200回に達したわけで、まことに目出度いことです。ここで会員一同、喜びをともにするとともに、諸先輩のこれまでのご労苦に対し感謝を捧げたいと思います。なお、後ほどの懇親会は、皆様のご協力を得てささやかなお祝いの会としたいと思っております。

最後に、私たちを取り巻く内外の諸情勢は、まことに厳しいものがありますが、こうした中において、わがクラブは、ささやかながら世の一隅を照らし続けていく存在でありたいと思います。クラブのますますの発展と、吉田新会長はじめ新役員のご活躍を祈念してご挨拶といたします。

3. ハッピーコイン披露

佐々木会長からハッピーコイン(後掲24件)の披露があり、最後に次の感想があった。

- ①2コイン以上の場合、コインの数を読まないでほしいという意見がありました。
- ②開会前の短い時間で書くので、多少の誤字脱字はしょうがないとしても意味の通らないものがある。俳句などはわかりやすいです。日本語で書いてほしい。
- ③簡潔に3行以内で。
- ④「のっぺらぼう」でなく具体的な事例で書いてほしい。

4. バースデー報告・バースデーカード贈呈



贈呈された。

会長より6月のバースデー報告（橋本晴重郎会員、廣瀬智子会員、山形忠顕会員の3会員）。池田会員作成のバースデーカードが

5. 幹事報告 永井幹事



5月20日に開催された健康フェスタは始まって以来の会員参加があり有難うございました。

また翌日の金環食の観察会には早朝から多くの会員が参加されお疲れ様でした。

6. 委員会報告

(1) 例会委員会 有泉例会委員長

出席状況報告（前記のとおり）。2名ほど欠席の連絡がなかったのが残念です。また、事業報告に年間の出席状況報告がありますのでご覧ください。

この一年間役割分担を決め、配席等にも工夫を凝らし、会員相互の親睦・交流を高めるよう配慮しました。結果、90%を大きく上回る出席率となりました。

(2) 情報委員会 馬場委員長



プロバスだより199号は石田会員が編集されました。投稿は矢崎安弘会員、小林貞男会員、山崎修司会員の3点を掲載いたしました。

本日学習サロンの抄録をお手元にお配りいたしました。

活動としては「プロバスだより」の発行・配布、ホームページの維持管理、生涯学習サロン抄録の編集・発行です。反省点としてはホームページの維持について武田会員の手を煩わしたことと、ホームページの大幅な改革を検討致しましたが実行に至らず次期に引き継ぐことにいたしました。

(3) 会員委員会 浅川委員長



今期は新入会員2名、退会1名で現在の会員数は71名です。各テーブルに名簿をお配りしてありますのでご自分の所をチェックして下さい。今後ともプロバスの会員にふさわしい方の推薦をお願い致します。

(4) 研修委員会 岩島委員長



本日お手元に「出前講師派遣事業」のリストをお配りいたしました。この運用がこれからの課題です。

野外研修の企画および実施、今期は水をテーマに実施いたしました。卓話につきましては7回行い、啓発の効果があつたと思います。それから同好会は新たに俳句同好会、旅行クラブが発足し、9同好会となりました。

(5) 地域奉仕委員会 田中委員長



2月23日の開講式から5月10日の閉講式・さよならパーティまで、会計報告などを残して無事終了いたしました。今期は①

16年の伝統の重み、実務を担当する委員長の作業量の重みがプレッシャーになっているので少しでも軽減できるよう見直しをしてきました。②開講を3週にするか4週にするかの問題がありますが従来行き方を踏襲いたしました。その中で一般会員の申し込みに対し週ごとの出席率の低下傾向にどのように対処するか。③一般会員の当日の受付・集金業務がスムーズでない等の問題を残しています。

(6) 交流担当関係 山崎理事



年一度大きな行事がありますが、今年度は11月17日に第1回関東中央地区交流会が当八王子で開催さ

れ、他のクラブから26名、当クラブから24名、8クラブの参加があり盛会でした。皆様のお陰で3年間交流担当として無事務めることが出来ました。ありがとうございました。

7. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長



5月25日実行委員会が開催され今年度の事業報告と決算報告を行い無事終了致しました。新年度は2会場、各60組計120組を対象に活動いたします。会場としましては本部教育センター、市内全域の小学校を対象にします。もう一つは都立桑志高校会場で、西八王子周辺の地域を対象に募集いたします。地域ごとの会場展開を通じ将来の発展につなげてまいります。

会場での協力並びに後援会としての金銭のご協力をお願い致します。

5月21日の日食観察会を通じ八王子「宇宙の学校」のPRを行いました。

8. 同好会報告

歴史の会：土井会員



第22回歴史の会開催
7月6日(金)7:45、
八王子南口多摩信前
集合、会費7,000円、
相模原博物館、JAXA、
田名塩田遺跡群見

学と鮎料理を堪能。

美術鑑賞の会：池田会員



5月ボストン美術展
見学を行いました。宮
崎会員が報告をして
います(後掲)。6月
19日諏訪・岡谷方面に
参ります。参加者は17

名です。美術鑑賞会と云いましても会員の登録は御座いません。企画ごとに参加者を募り、ご家族・知人・友人も参加は自由です。今回もサロン会員、お友達も参加いたします。

旅行クラブ：渋谷会員

旅行クラブは「楽しみ50%、食べ物30%、や



や優雅に20%」というイメージです。会員の伴侶の参加を歓迎しています。原則一泊以上、日帰りもある。

年に海外1回、国内2回。

第1回は8月20日(月)より5泊6日モンゴルに参ります。参加者は14名です。6月18日17時より八王子南口で結団式を行います。国内旅行は11月に全日本プロバスの総会への旅行がありますので検討致します。

俳句の会：河合会員



現在7人。月1回例会。俳句半分、人生経験の話の半分しています。どうぞ気軽に参加ください。

お茶の会、ゴルフ同好会、写真の会、囲碁の会、麻雀クラブいずれも報告なし。

9. その他 立川会員



11月13日(火)に神戸で全日本プロバスクラブの総会があります。先月ご案内いたしましたでしたが引続き淡路島方面に旅行を計画しています。参加をお待ちしています。

佐々木会長

来年は第68回国民体育大会が行われます。当プロバスクラブ会長がスポーツ祭東京2013の実行委員になっています。他の団体の代表や役員として杉山さん、立川さん、塩澤さんが実行委員になっています。八王子ではサッカー、体操、自転車ロードレース、軟式野球、硬式高校野球、ゴルフの6種目が行われます。

馬場会員

私がメンバー(パート:バス)である男声合唱団シリウスの演奏会があります。ご来場をお待ちしています。

7月14日(土)13:30開場、14:00開演、
いちよう大ホール、入場無料

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会の挨拶 吉田副会長



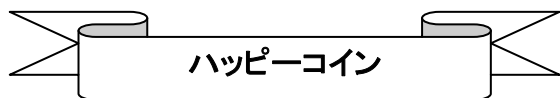
この1年間の実績報告を聴きますと大変充実した1年ではなかったかと思えます。この楽しい有意義な成果

を引き継いで行きたいと思えます。これにて閉会といたします。

特記事項:

- ・6月度より服装はクールビスです。
- ・欠席の連絡は各委員長へ。各委員長は例会2日前までに例会委員長まで。緊急の場合は当日9:30までに直接例会委員長（飯田）までに。

(Tel 042-625-4416、FAX 042-625-5644
携帯 090-3230-3820)



◆誕生月の例会は、結婚五十年の謝恩旅行で欠席、ウイーンで78歳の誕生日を迎えました。耐用年数切れの近い身ですが、皆様とともに向こう1年活動できたらと願っております。 橋本鋼二

◆5月の八王子市健康フェスティバルの実行委員長、プロバスの皆さんに支えられて大役を果たしました。感謝します。 塩澤迪夫

◆6月10日小学校の同窓会へ出席、久しぶりに旧交を温めて来ました。 野口浩平

◆世紀の金環食に立ち会い、その神秘的な現象を観察できた幸運に感謝、「宇宙の学校」の讃歌とも。

金環食夏の朝なる天体ショー 河合和郎

◆金環日食71年目で初めて見た。ハッピーである。 荻島靖久

◆3年の交流担当から卒業見込み。 山崎修司

◆委員長任期も残すは半月。情報委員会メンバーと会員の皆様の御協力に感謝申し上げます。

ありがとうございます。 馬場征彦

◆「第16回生涯学習サロン」が無事終了しました。皆様の絶大なるご協力に感謝して。田中信昭

◆驚くべきことが2つありました。①世田谷小学校在学時の「クラス担任」の消息が62年ぶりに

判明しました。近々、面談が叶いそうです。②先月29日、昭和20年7月17日に投函された「未開封の手紙」を入手しました。甲府在住の祖父が、新京の関東軍司令部の父に宛てた「軍事郵便」です。往時の特殊状況が判り、感慨無量です。

山形忠顕

◆佐々木会長はじめ皆様ありがとうございます。

戸田弘文

◆佐々木年度、理事会の皆様のクラブ奉仕に感謝して！！

杉山友一

◆佐々木会長初め理事の皆さん1年間ご苦労様でした。来月から吉田会長グループの皆さん1年間宜しくお祈りします。

竹内賢治

◆佐々木年度も有意義な一年を過ごすことが出来、心から感謝すると共に、またひとつ財産が加わりました。ありがとうございます。宮城安子

◆佐々木年度の充実したクラブライフを思いや

って。 吉田信夫

◆5月27日甲府市甲斐善光寺裏山で記念植樹を行いました。1000本のヤマザクラ・コブシです。

140名の参加がありました。8月5日満80歳になり、傘寿記念の植樹です。

竹内賢治

◆78歳の誕生日を迎え感謝の気持ちです。

橋本晴重郎

◆まず一句、「あなうれしゴルフ優勝初夏の風」万歳。

東山 栄

◆囲碁同好会で囷らずも最下位の私が優勝しました。これも一重に同好会諸兄のご指導の賜物と感謝しております。でも本当はライバル。

東山 栄

◆6月9日加藤登紀子コンサート出演、そして打上げとシュールな一日を楽しみました。八木啓充

◆記念すべき200回の例会、おめでとうございます。

土井俊雄

◆定期検診の結果異常なし。

骨折した指もゴルフに耐えてくれてハッピー。

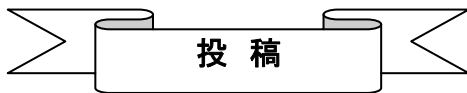
永井昌平

◆一年間例会委員長を何とか務めさせていただきました。会員の皆様のご協力に感謝致します。ありがとうございました。

有泉裕子

◆本日、第200回目の節目の例会を迎えました。ここでこれまで16年間にわたる足跡を振り返る

とともに、さらなる発展のため会員一同努力して
いきたいと思ひます。 佐々木研吾



『帰ってきた蕭白』

ボストン美術館 日本美術の至宝

宮崎浩平



5月23日、東京国立博物館の「ボストン美術館、日本美術の至宝」展の鑑賞会を行った。参加者、渋谷、下山、野口、市川、馬場、池田、宮崎の7会員。

前評判の良さから、すこぶる盛況であった。今回の展示品はボストン美術館が所蔵する10万点を超えると云われる日本美術コレクションの中、ごく一部であるが、その、ほとんどの作品が国宝、重文級である。

ボストン美術館の日本美術のコレクションは19世紀後半から20世紀前半にかけて、二人のポストニアン、アーネスト・フランシスコ・フェノロサ、そしてウィリアム・スタージス・ビゲローによって行われた。また、このコレクションには岡倉天心がボストン美術館中国・日本美術部長として果たした役割も、極めて大きい。

フェノロサ達の日本美術品のコレクションは、フェノロサが東京大学で政治学、哲学などを講義するお雇い外国人として明治11年(1878)に来日した時から始まる。来日後、ほどなく日本の古美術に深い関心を寄せるようになり、毎年関西方面へ旅行し、私的な古美術品の収集や古社寺での宝物調査を重ねた。明治15年にはボストンの医師で富豪のビゲローが同行して、文部省から岡倉天心が随行して、文化財保護を目的とする政府美術行政による宝物探しを実現した。本来は日本人がやるべき仕事を外国人によって成され、現在海を渡ってボストンの地にあることは誠に残念な気持ちもする。

さて、今回の展覧会の目玉は何と言っても、曾我蕭白の水墨画であろう。国宝・重文の蕭白作品が11点並んでいるが、中でも、ボストン美術館

の倉庫に永く眠り続けて居て、今回の日本公開のため、5年間の修復後世界初公開となった「雲龍図」の迫力は群を抜く。今まで見た、等伯や北斎の「龍」の作品と違う雄大さがある。幅11mの襖絵、巨大な大きな目玉の直径30cm、大きな鋭い爪、長さ5mの尾、きっちりと描かれた鱗、水墨画の技の傑作であるが、反面、困ったような、怯えたような顔の表情がユーモラスさを表している。他の作品、「龐居士・靈昭女図屏風」(見立久米仙人)は若い娘の白い腿を見て、神通力を失くして空から落ちたと云われる逸話が想像出来る滑稽さをも感じ取れる。奇才蕭白の多彩のテクニックに圧倒される。

その他、今回のボストン美術展から里帰りした作品には、海を渡った二大絵巻、「吉備大臣入唐絵巻」と「平治物語絵巻」、中世の水墨画と初期狩野派の長谷川等伯、尾形光琳の作品、安土桃山時代から江戸時代の近世絵画の巨匠たちの名品、刀剣や染織(織物)の工芸品の一部が出陳されたが芸術的価値の高い魅了される作品ばかり。

本展覧会は、かつて海を渡った、幻の国宝とも呼びうる日本美術の至宝が一堂に里帰りする機会を得たことと、十分に楽しむことができる。

第16回定期総会

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会
2. 挨拶 佐々木会長



プロバスクラブの活動とは何ぞや、という事ですが、今までの豊かな知識と経験を活かすことはもちろんですが、一方で今ま

での経験をリセットして新たな気持ちで活動することが大切であると考えます。今期は会長としての方針は示しますが、具体的な活動は各委員長にお任せし、自由闊達な活動を期待いたしました。そのような観点から本日の議題を検証していただきたいと思ひます。

3. 議長選出

恒例により会長が議長を務めることとなり、議

長は会員総数 71 名の内、出席会員は 66 名であるので本総会は有効に成立したことを宣言した。

4. 書記1名、議事録署名人2名選出

議長は書記に河合和郎会員、議事録署名人に阿部和也会員ならびに根本照代会員を指名した。

5. 議案 事業報告(2011年7月～2012年6月)承認の件

議長は永井幹事を指名し、幹事は資料に基づき当年度の事業の報告を行った。

議長は議場に挙手により承認を求めたところ、挙手多数で本件は承認された。

6. 会長委嘱人事並びに各委員会構成員の発表

吉田副会長は資料に基づき表題の報告を行った。東山会員より会長、副会長、幹事、交流担当は委員会に所属していないが規則に明記したらどうかとの意見が出され検討することとした。

7. 閉会挨拶

吉田副会長から、新人事が決まったので、会員のご支援、協力をお願いする旨の挨拶があった。

懇親会

土井例会委員長の司会で懇親会が開催され、佐々木会長の挨拶に続き、



杉山前会長の音頭で乾杯

笹清氏の伴奏で山形会員の歌が披露された。



各委員会メンバーが舞台上で挨拶。



宮城副幹事の司会で



下田会員の南京玉すだれ

余興タイム

みんな輪になり合唱でお開き。(下)



200号 記念寄稿

プロバスクラブの創設から生涯学習サロンまで 大野 聖二

平成7年10月、国際ロータリー2750地区丸山ガバナーの八王子南ロータリークラブ公式訪問

に際し、八王子プロバスクラブが発足しました。この時、初代会長を仰せつかって33名のメンバーの顔ぶれを見て、それぞれ素晴らしいメンバーなので重責に心が引き締まり、このメンバーとどのようなクラブ

に育てるか思いを巡らしました。

私はかつて八王子西ロータリークラブ(RC)に在籍中、会報委員長として、ウィークリーの表紙を利用して、写真による八王子の昔と今を連載し、これを纏め「山と平野のふれ合う街」として発行した際、八王子の南部住宅団地の人達が、日本の企業を推進し、終戦後30年にして世界第2の経済大国に育てた人達や、公的立場で日本をリードした人達の住宅地であり、地域の文化水準を



高める人達であることを痛感しました。私がRCの会長を仰せつかった昭和53年に、これらの婦人達に、八王子の街作りに興味を持って学んで、地域や日本の未来を理解していただくべく「レディズカレッジ」を開講し募集したところ、300名を超す申し込みがあり、3年に亘り開講しました。

この経験を前提に、プロバスクラブもなるべく南部地域に重点を指向して募集しました。こうして地域の知性を代表する人達が参加して下さったことにより、これらの人達の知性と知識と経験を市民の方に伝えることを考えました。その頃、報道機関が各所で学習講座を開講し始めていましたが、プロバスクラブのメンバーの体験や研究テーマを講座という仰々しい形より、対談形式で気軽に学び合うように欧州社交界で行われたサロン方式の講座で、気軽に交流できるシステムを提案しました。

幸い高等裁判所長官をされた藤野さんや、日本航空の訓練所長をされた田子さん、中学校長会会長をされた野口さん、日本コロンビア理事の平原さん、地域で音楽グループを主宰している立川さんなどが携わることになり、平成9年2月から「生涯学習サロン」として開講することになりました。かつてのレディズカレッジ参加者も多く参加され、応募者も70名に近く、20サロンと東京工科大学、多摩薬科大学、中央大学等や絹の道周辺の見学会と、菱山忠三郎先生による八王子の自然の講演で好評をいただきました。この運営に会員が全員で、話し手と進行、会場、案内等の運営に当たり、好評裡に終わって、例年開催に結びつきました。会員にとっては生涯の研究テーマや体験を後輩に伝えられる、或いは趣味や特技を語り合い、地域や市民と交流できる等、健康の上でもアルツハイマー予防の上でも、生き甲斐を創出する意味でも、プロバスクラブのメイン行事となって、全国からも注視されています。

昨年の東日本大震災に際して、各国から報道関係者が多数来日しました。当初は罹災者の人達がみんなで団結して郷里を再興しよう、という姿に感動し、日本は復活できると一様に語っていましたが、1ヶ月ほどたって独仏の記者が、日本は罹災者たちは立派だが、リーダー教育は間違ってい

たようだと言っていました。最近の報道で皆さんも気がつかれたと思うのですが、専門家の発言が局所的で大局観に欠けています。プレートテクトニクスによると、太平洋プレートが急角度で北アメリカプレートに潜り込み、これにより日本海溝は1万メートル級の海深で、世界で最も危険な場所となり、明治29年には三陸沖津波で2万2千名の犠牲者を出している、昭和初期にも津波で犠牲者をだし、防潮堤を造った町もあり、原子力発電所を造るには最も危険な場所だったのです。罹災後、東京電力社長の「想定外だった」との発言には耳を疑いました。ここに原子力発電所を造った責任は通産省、文部科学省、さらに当時の政府、政治家だったのに責任は無視されています。

最近、日本の教育改革が話題になっています。終戦直後の米国の占領政策によって旧制高等学校を廃止し、大学を4年間制にしてしまった結果、専門家を育成するに迫られて、基礎学力と基礎理論がおろそかにされ、日教組によって先生が人間を育てる教育者としてより、労働者として体制を敵視した事が今になって日本人の心を崩壊させつつあります。学問の世界でも、仔細に走り、基礎を軽視したことで、いわゆる専門家の震災直後の発言が今になってむなしく聞こえます。私は、かつて大学連絡協議会の一員でしたが、大学は学生たちの教育より、経営が主眼でした。学生達に思考力を付けるべく「いちょう祭り」に学生委員会を作り、「自分たちで何をするか考えろ」と企画を任せました。当初は学生達もがんばって、東京大学と芸術大学の大学院に進む学生も2人ずつ出ました。また、電通やリクルートで活躍した学生も数人ありましたが、行政が介入するようになって「考えるよりどうしたらよいか教えてください」と云われてしまいました。今大事なのは思考力を付けることと、人間の心を育てることだと思います。一昨年いちょう祭りに参加した学生から結婚式に招待されました。案内状に「いちょう祭りのおかげで考えることを知りました。新しい職場は新しい商品を開発する部署です。是非結婚式に出席して下さい。」と書かれてありました。今学校でも塾でも、講師の知識の範囲内の話を聞くことで卒業できるのです。新しい勉強法は、サ

ロン風に自由に質問し、切磋琢磨しあうこと、講師にとっても様々な意見を聞くことが大切で、セミナーと似て非なるサロン風学習法を選んだことは今後の日本人の勉強方として適切だったと思います。今日本の企業に求められることは商品の改良より、基本的な需要の開発研究で、仔細より包括的な発想を要求されているのです。

千の風になったなつかしい友へ (200号記念に寄せて)

立川 富美代



平成7年5月緑さわやかな日、訳もわからいままに八王子セミナーハウスに連れてゆかれました。南ロータリークラブのお歴々が「プロバスクラブ」を立ち上げるから準備会に入れとのご命令でした。

以来、あつと言う間に17年を迎えようとしています。10月、準備会の11名と共に33名のチャーターメンバーとして東京八王子プロバスクラブが設立されました。でも残念なことに今現在8名しか残っていません。17名もの仲間が鬼籍に入りました。今全国110もあるプロバスクラブの中で、八王子は常にリードオフクラブとして活発に活動をしていることを、その方々に見て頂きたかったと思います。忘れられない友、なつかしい思い出、たくさんあります。千の風になって私達に吹いてくださいね。

桂 元二さん(H. 23年2月没)

準備会からのメンバーで、初代幹事。大正生まれの元少年航空飛行兵で、支那や沖縄で苦勞をされました。よく戦争時代のお話を聞きましたが、モンゴルへの支援を始められて仲間に入れられました。たくさんの品物を集め、モンゴル大使館に届けにゆきました。お陰さまで私もその関係で、自分の活動のベースであるガールスカウトを連れてモンゴルの学校の奉仕に何度も行きました。ウランバートル名誉市民の勲章まで頂きました。桂さんのお陰です。

5年間以上病床にありながら、もう一度モンゴルへの夢を持ち続けておられました。今年奇しくも当クラブの旅のメンバーを13名もモンゴルに

案内いたします。お元気だったらどんなに喜ばれるか。桂さんのお心も抱いて行ってきます。

北原満夫さん (H. 12年1月没)

設立当時から理事メンバーでした。何かと理由をつけては呑み歩きました。まるで少年が大人になったようなワンパクでピュアな可愛い人でした。現役時代は保険会社のえらい人だったのに、エルシーの前で単純な車事故を起こし、保険屋が縁起でもない、新しい車をすぐに売ってしまいました。カナダに旅行に行つて疲れた一と言われ、急性白血病であつと言う間に亡くなられました。本当にすぐ会長になられる方だったのに。

お元気だったら今頃はクラブの牽引車のお一人だったと残念でたまりません。

平原 俊彦さん (H. 22年9月没)

音楽活動を長くしている私にとりまして大大尊敬する方でした。元コロンビア洋楽部長として、世界中を飛び歩いておられました。美空ひばりの録音のねえ、とか、コロンビア全盛時代の数々の裏話や、勿論専門のクラシック、特にモーツァルトについては本当にくわしく、色々なお話を伺いました。

クラブ5周年、10周年のエンターテイメントの部分は二人で企画、実行して大成功させたことは一重に平原さんのお力と忘れられない思い出です。

肝臓がお悪くて何度も何度も「別荘に行つて来る」と1年に2度づつ入院して治療をしておられました。

1昨年9月「息苦しいから見てもらったら肺炎だつて」と病院から電話を頂き、早く帰つてねと言つて1週間目に奥様から危篤と電話を頂き、すつ飛んで行きました。ふつと眼を開けられて「ありがとうね、がんばつてね」と言われたのが最後でした。

尊敬する仲間、かけがえのない仲間、できることならもう一度帰つて欲しい・・・

松尾信一郎さん (H. 22年4月没)

八王子フィルハーモニー合唱団で毎週18年ご一緒でした。18年の間の4年間は事務局長として助けてくれました。40代で奥様に先立たれ、2人のお子様を育て、長年多摩動物園の猿山の奉仕

とか本当にストイックにお過ごしでしたが、何しろガンコ。

平原さんと同じ肝臓を悪くしておられたのですが、つらい時はその様に言ってくださいと言っても絶対に弱音をはかず、合唱団の運営のことでガンコをまげないので良くぶっつきました。ぎりぎりまで頑張った最後の入院で「団長、今度はもうがんばれないよ」と珍しく弱音をはき、翌日天国に召されました。先日 JR 八王子駅で松尾さんにとっても良く似た男性に会い、ドッキリとしました。

松尾ちゃん、今年 10 月は 20 周年記念の貴方の好きな「メサイヤ」を演奏するのよ。歌いたいでしょと言いましょ。

長町先生 (H. 17 年 2 月没)

消化器科の権威だった先生は第 6 代の会長さんでした。第 3 代会長の野口先生とお二人だけが「先生」と呼ばれました。たった 5 年間位の在籍でしたが、インパクトの強い先生で (とてもやさしい人ですが) サロンの健康関係を一人で受け持っておられました。

会長年度が近かったせいもあり、平原さん、大高さん、長町先生と私と 4 人で良く食事をしながら色々なお話をしました。「ふくろう先生」と現役時代の群馬大学病院の医師の頃からふくろうの収集で有名で、お宅にはあらゆる「ふくろう」があり入れるところが無くなって・・・いつもコボシテおられました。私がメキシコ旅行から、珍しい「ふくろう」の人形をお土産に持って来て差し上げましたらとても喜んでくださいました。

ふくろうは幸せを呼ぶと言われるのに、早々と旅立ってしまいました。しかも大腸ガンなんて。余りにも皮肉です。どうして早期発見が出来なかったのだろうと残念に思います。

岩岡茂之さん (H. 18 年 10 月没)

千の風に乗ってハワイアン of 軽快な音が聞こえます。「アナカラ・ハワイアンズ」のギタリストとして、さよならパーティのご常連。お仲間と共に軽快に演奏して下さいました。楽しくて古川さんなんかは踊り出す始末。とてもなつかしい。

慶応大学の野球部のマネージャーとして野球にもくわしいこと。お話によりますとピッチャー

だったのが、肩をこわしてマネージャーになられたとのことでした。野球談議になると口角泡を飛ばすと言っても良いくらいに夢中でしたっけ。好々爺というのがぴったりのおだやかな人でしたが、こと野球の話は別。サロンでも「野球あれこれ」でよく楽しいお話を伺いました。

さよならパーティが近くなって、企画を考える時、必ず「アナカラ」のハワイアンが目、耳に浮かびます。

野口正久さん(H. 18 年 10 月没)

八王子出身でない私は、最初野口先生は現役時代は中学校の校長先生とばかり思っておりました。ところが八王子郷土歴史研究者としての大家であることを知りました。市の郷土歴史編纂者として立派な本を残されたり、また、たくさんの市民に八王子の郷土歴史を教えてくださいました。サロン講話も最初のころは、長い講話があり、それから 4 つのサロンの形式でしたから、その講話は大変興味のあるものであり、私にとりましては八王子の歴史を知るよい機会でした。

クラブの中で長町先生と野口先生とお二人がいわゆる「先生」でしたね。お二人ともおだやかでニコニコと野口先生の方が少しお声のトーンが高くて、弾んだ声でお話して下さいました。

10 周年記念に京都プロバスと交流して兵庫県の城崎温泉に行きました。その折に城崎山のケーブルに皆さんが乗ったのに先生だけが乗らないで、ヒョイヒョイと階段を上がり、途中の茶屋でスタンプ押ししたり、写真を撮ったりしておられたのを、何と健脚！もうその頃は多分 70 代中ごろであったでしょうに。先生お顔の色が少しお悪いよ、と申しましたら、少し血が足りないんだよ、なんて笑っておられましたが、やはり急性白血病でした。今もお顔とお声がすぐに浮かびます。

秋山邦博さん (H. 18 年 5 月没)

プロバスケットでは異色のキャリアの持ち主でした。NHKアナウンサー室長として帯番組の司会者として有名でした。合気道の段持ちとして、八王子体育協会でご一緒でしたので、プロバスケットクラブに入らない？と申しましたら、プロのバスケットクラブ？なんて運動家らしい返事でしたが、現役時代の活躍を生かした数々のテレビ界のお

話をして下さいました。

サロンの話し手としてはプロフェッショナルですから、参加者の空気をアツと言う間に掴んでしまい、どんどんご自分の世界に持ってゆかれました。私も色々な場面で人前でお話をする機会も多いので、大変な勉強になったのですが、所詮プロアマの差はいかんと出来ません。でも色々なことを教えて頂きました。肺がんと言う不治の病に倒れ持ち前の不屈の精神で頑張られたのですが、クラブ在籍3年半と言う短いクラブ仲間でした。

数名の方の思い出をたどりながら、プロバスライフは色々な世界の方々との交流の楽しさを教えてくれる良い組織とつくづくと思いました。

物故者の皆様に合掌

会長職を振り返る

濱野 幸雄



私は第11代会長職を経験した。誰でもが感じるものだが、何がリーダーとして必要なものかを考えるため、記録に残っている創立5周年、10周年やプロバスクラブの記録を読んでみた。

これは五木寛之の「百寺巡礼」に書かれているのですが、古いインドでは、人の人生を四つの時期に分けている。一つ目は「学生（がくしょう）期」、現在風にいえば社会人になるまで（20歳まで）。二つ目は「家住（かじゅう）期」、社会に出て一家を構えて、仕事に精を出す（20歳～60歳）。三つ目は「林住（りんじゅう）期」、これが非常に面白く、仕事をリタイアし、自由時間が一杯あって、人生が一番充実した時間を持つ事が出来る。60歳、70歳、80歳、人に依っては90歳までが林住期。四つ目が「遊行（ゆぎょう）期」、人生の締めくくりの時期で、心緩やかにと云った具合だ。プロバスクラブの会員の皆さんは「林住期」そのもの、一番良い時期で今年のテーマを「豊かさを求め、プロバス・ライフを楽しもう」と決めさせて貰った。

具体的な活動は温故知新の精神を持って、積極

的に取り込んだ。

- ① 地域に認知されたクラブ。
 - ② 広報活動担当者を決め、スポークスマンとして働いてもらいたい。
 - ③ 2007年問題を踏まえて、会員増強のチャンスとする。
- ①については八王子市民活動協議会に入会した。積極的に参加し、こちらからの情報発信や、他からの受信につとめた。又会員にも名刺を渡し、他のグループとの交流につとめた。
- ②については広報担当を決め、情報交換を実施し、プロバスの成果を示す事が出来た（来訪者の勧誘、招待）。
- ③については、当時昭和22年生まれから、3年の間に690万人が生まれ、ベビー・ブームの定年の時期が来る、だから会員増強のチャンスと考えた。他に五つの委員会には、それぞれのテーマを与えてやって貰った。

とくに年度に計画した事は次の様な事となる。

- 1：会員委員会には「お宝発見」というテーマで12月例会に発表会を実施した。
お宝の範囲；①高価なものお断り、②忘れ得ぬ品、思い出の品、③趣味の品（高価な物、こわれ物お断り）、④机の上に置ける物（壁には掛けられないので）。
非常に楽しく、こんな楽しみもあったのか、親子の関係等、色々楽しみが分り、これを通してコミュニケーションが更に活発になりました。出された品物については、情報委員会がまとめホームページに「私のお宝見せます」（2006・12・14）として保存してある。
- 2：情報委員会からは10周年も過ぎたので、第6周年からの会長に集まって頂き、「新たな10周年に向けて」新春座談会を開催した。これからの当クラブの進捗のヒントを与えることができたのではと思う。
- 3：野外研修は、旧聖跡記念館、武相荘、自由民権資料館、国際版画美術館を見学、八王子の近くにこの様な場所を探してくれた委員長に感謝を申し上げたい。また、近郊の櫻屋さんで非常に楽しい会食をさせて頂き、夕刻の慰労会でも更に楽しい宴となった。

会の運営も非常にうまくいき、来訪者は南RCから30名、多摩PCからも10名を数え、外部団体交流には19名が参加した。

会員委員会としては入会者7名、退会者4名、物故者3名。目標は達成したが、逝去者が多かったのは残念であった。

面白い卓話の継続として7件、外部への講演で13件を発表している。更にサヨナラ・パーティには写真同好会から薔薇の撮影会の展示があった。

プロバス生涯学習サロンに就いても、運営は立派に終了し、平均106名以上の参加があり、「サロンの進化」をテーマとして取り組み「進化」とは時代のニーズに対応し、参加して下さった方々に、御満足して頂く内容の講座や接遇であるとの思いから、常にサムシング・ニューに心掛けて参りました。お蔭をもって立派にサロンも終了する事になりました。

いずれにしましても、良き委員長に恵まれ、幹事が全ての事を実施してくれた事が、良い結果を生んでくれた事になります。

大病を発症しましたが、幸いにも一命を取り留める事が出来、「林住期」を共に楽しめる日々を過ごす事にしています。

{プロバスだより第200号}おめでとうございます 大野 幸二



久しぶりに「プロバスだより第1号」をファイルから出してみた。思わず懐かしさを感じた。

第1号はA4版片面刷りで、しばらくこの体裁が続いた。年月をかさねるうちに2ページから4ページに増え、写真もカラー刷りになり内容も充実した。そしてついに第200号を手にして「続けることの大切さ」を実感した。

その陰に、情報委員会プロバスだより担当の大変なご苦勞があることを忘れてはいけない。

今まで、気楽に読んでいたプロバスだよりだが、第200号を手にして改めて情報委員会プロバスだより担当に感謝し、プロバスだよりの進展を

願っている。

年寄りのたわごと

岡田 尚



最近テレビなどで自分と年の近い人の姿を見て随分年をとったなと思う。だから私を見る目も同じように年をとったなと見ているに違いない。

確かに車の運転をしていて、特に暗い夜などヒヤッとする事が時々あった。自分は便利だが、他人に迷惑を掛けると申し訳ない。特に介護を要する家内を隣に乗せて事故でも起こしたらと、思い切って車を処分することにした。誠に不便である。今まで気が付かなかったが、ちょっとそこまでということの多いこと、今更ながら気が付いた。

不便だから自転車を買ったら、ふらふら運転で転んで未だに足が痛む。車道を走るのは怖いので、歩道を走るのだが、歩道のいかに狭いことか。先方からの人や自転車とすれ違う時などふらついて危険を感じ車を降りる。若い頃、いや数年前まではそんなことを感じたことはなかった。やっぱり衰えたんだなと思うとともに、歩道の狭い事、平坦なところが少なく斜面や凸凹がいかに多いことか、役所にまで文句を言いたくなる。だから、自転車を買って数ヶ月になるが4~5回しか乗っていない。でも駐輪代は毎月しっかりとられている。

自動車や自転車は乗らなければ解決するが、物忘れ、間違いが特になくなってきたように思う。さっきまであった物が見当たらない、探せばかりいる、印刷が終わってしまってから間違いを見つける。注意力がなくなり、いい加減になってしまったのかな。

先日はコンピュータが壊れ、初期化して再度インストールしてもらった。不十分ながら何とか使っている。不思議な事に自宅で使っているコンピュータも同じ日に壊れて完全に使えなくなってしまった。自宅のは中古品を探して何とか間に合わせているが。こうなることを予見して別のを用意はしていたが、新しくって使用方法がまるで違

っていて、半年もたつのに未だに殆ど使えていない。勿論解説書は5~6冊買ってきてはいるが読んでも頭に入らない、また読む気にもならない。だから壊れかけの古いのばかり使って折角の新しい機械は隣に飾ったままの始末である。

コンピュータが壊れる少し前、印刷機の方も600万枚を超え修理が多くなってきたし、そろそろ年貢の納め時かなと思ったが、やめるとますますボケルぞ、と脅かされ、新しい機械を購入してしまった。なんとか後1~2年は頑張ろうかと思つて。

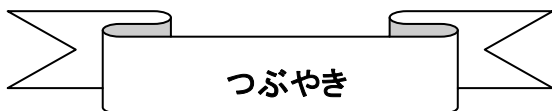
家内の介護のこと、自分が倒れてしまったら、などなど考える事が多くなってきた。数年前、車の運転中にひどい眩暈を感じたことがあり、それから北原脳外科で年2回MRIをとっている。今のところは大した問題はないと云われているが何かあれば子供達が何とかするだろうとたかを括っている。もうそうは長く生きてはいないだろうが、家内を先に逝かせてから、子供たちにあまり迷惑をかけずに逝きたいものだと思つている。

情けない今の日本、敗戦後の教育のせいなのか、政治家のせいなのか、それを選んだ国民のせいなのか。消費税増税、年金問題、子供たちの時代いや孫達の時代のことを考えると気に毒でならない。ギリシャの二の舞にならないければ良いが。

昨夜孫娘から婚約し来年には式を挙げると電話があった。曾孫を抱ける日はそう遠くはないかも、くたばれないぞ、頑張らなきゃ、**年寄りのたわごと**かな。

ちなみに君は幾つになった？プロバスだより200号発行に16年余、それに入会資格60歳以上だよ。まだまだ澁刺とした諸先輩を見習つてもう少し頑張るつもりである。

子供や孫達のために「ジャンボ宝くじ1億円」でも買って来ようかなと思つ今日この頃である。



KU-MA (子ども・宇宙・未来の会) のホームページを見ると各地区で行われた「宇宙の学校」が、年度末で一斉に閉校式となった様子がうかがえます。もちろん八王子も載っています。「宇

宙の学校」実施している県を示す地図上で東京をクリックすれば八王子の全容が出ます。

その中に、YMコラムと言うのがあって、的川泰宣先生がその時々活動に関連しての出来事や、宇宙関連のニュースを解説しておられます。2月16日にヨーロッパの固体燃料、科学研究衛星が打ち上がったが、これはミューロケット(日本)の技術も取り込まれていると言つたお話。2月23日は「ある出会い」として、三重県の津で講演した時の1聴講者との出会いの話です。毎週とても感動することがありますよ。是非アクセスして見てください。(K. S)

サロン受講者から意見をもらった。彼女は1回目からの常連の受講者なので、どの様な意見か期待した。「昨年は大震災で残念だったので、今年は期待していたのだけど~」「講話はそれなりに面白かったよ」「さよならパーティは毎年楽しみしているのだけど、今年は最低。それは回りの男性と女性のクラブ員が、飲んでおしゃべりばかり、飲むほどに段々声が大きくなり、全くお話も演奏も聞こえなかった。楽しみにしていたのがっかり。プロバスは知的レベルの高い人が会員と思つていただけ、その辺のオジサンオバサンの集まりと変わらない。来年は何とか注意してね」。穴があつたら入りたい気持ちだった。思いあたる会員に猛省を願う。来年はこの様なことがないように期待しよう。(F. T)

日食観察会

5月21日



編集後記

年度末の緊張感と新年度への期待で鼓動が高鳴ってきます。

仰ぎ見よ 奇瑞や日の影 燕飛ぶ

声合せ 清しき歌に 梅雨晴れぬ

八木啓充